

あまのつゆ
 如く
 甘泉星
 國貞画
 獲清化



遠
 2502
 6-2



嘉永八卯新板目錄

假名古

柳下亭種員作
一休草紙
九編 八編 七編
一雄齋國輝画
出版

同作
女郎花五色石臺
九編 八編 七編
同画

踊形容花競

初編より十編まで當年出版

編者 柳水亭種清
画工 一陽齋豊國

此はさうし豊國が画ける多くの錦画を種清がこころをこらした項の
黒表紙に似たる品のそれらと三都のうちにあつた錦画とのよ
あし高評をうの八文舎をあせりのおどろ形容初なる時をもさ
心進めし出版仕るはのとあはらの程希上なり
板元敬白

地本草紙問屋 芝神明前 和泉屋市兵衛版



風俗淺間嶽

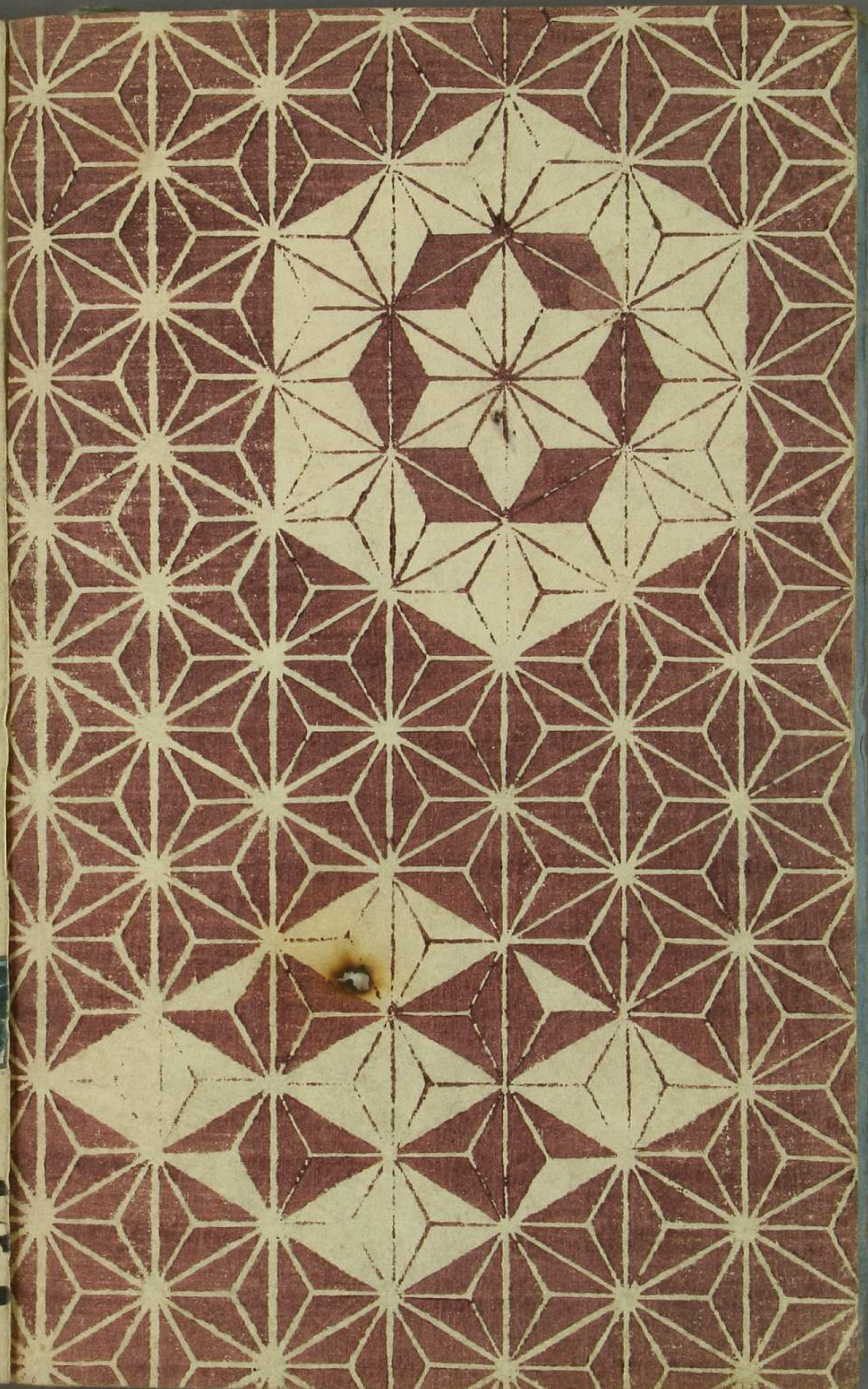
三編上

神女殿

楚王墓

甘泉堂
梓

種清作
國貞画



一壽齋國貞画



下



柳下亭種員関

柳水亭種清作



升題曲立國貞

上

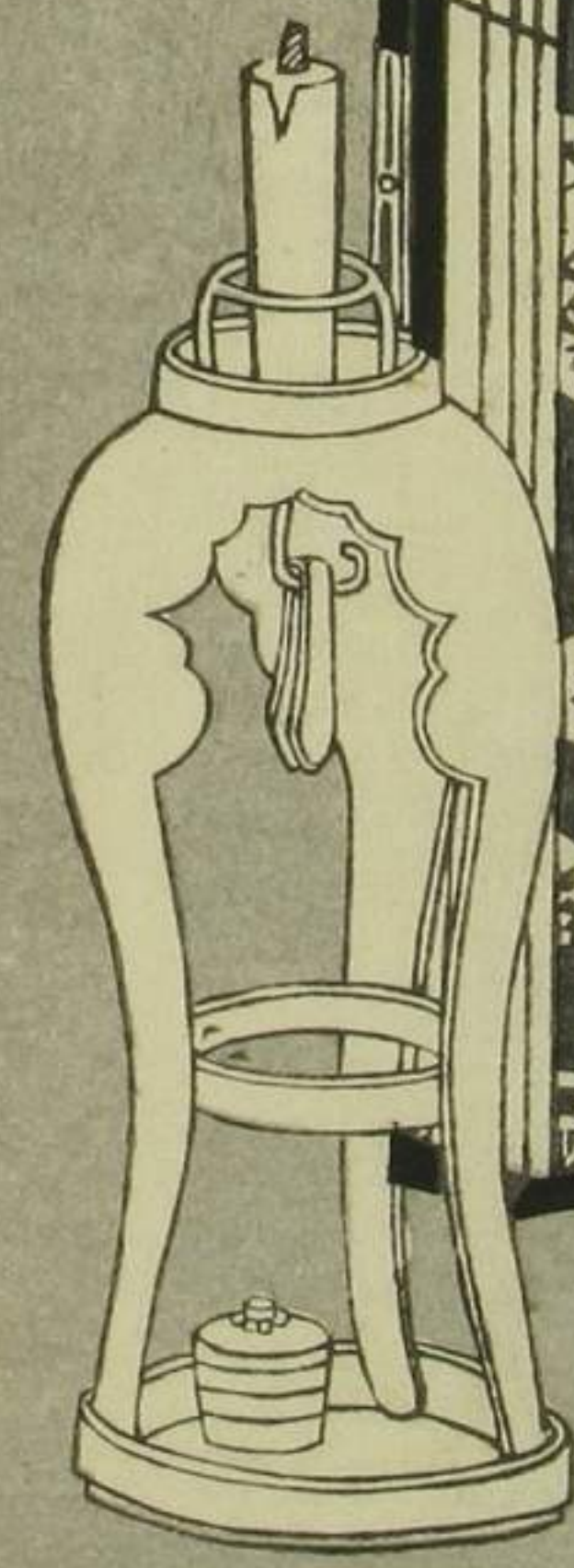


意こころてふものし書かきふ一ひとむら
 ひを稱なづふね緯いとのやうふ
 往ゆき日の夢ゆめの楚しよ王わうが
 執と着ちやく朝あさ雲うん暮ぐ雨うの
 故こと事こと成なり今いまふ浮うき名なの
 説と絶たすねい浮うき世よの
 夢ゆめの冷ひやね間まとと
 浅あ間まが嶽たけの
 奈な羅ら伽がふひき
 替か清せい涼りやう山さんの
 丈ぢやう殊じゆが

浅間山賦三編

遠
 2502
 6-2

風俗淺間嶽三編下冊
 種清抄録 國貞圖画
 甘泉堂



淨きよ土つちと巻ま首くび引ひや
 是こゝ有あの線せん心こゝろとの字じの鞆たもと々々
 神かみ女むすめと佛ぶつ士しとある樂がく屋やのあをせもの
 意こころが菩ぼ提だいの種ね本ほんと種ねの種ねるる孫まご種ねが
 毫こゝろの利きの甘あま泉いづみ堂どうの梓すず上かみみ
 三さん度たまで植う安やすをを見み上あらせ
 玉たまと高たか覽らんをを只ただ管くだみ
 晞あるる

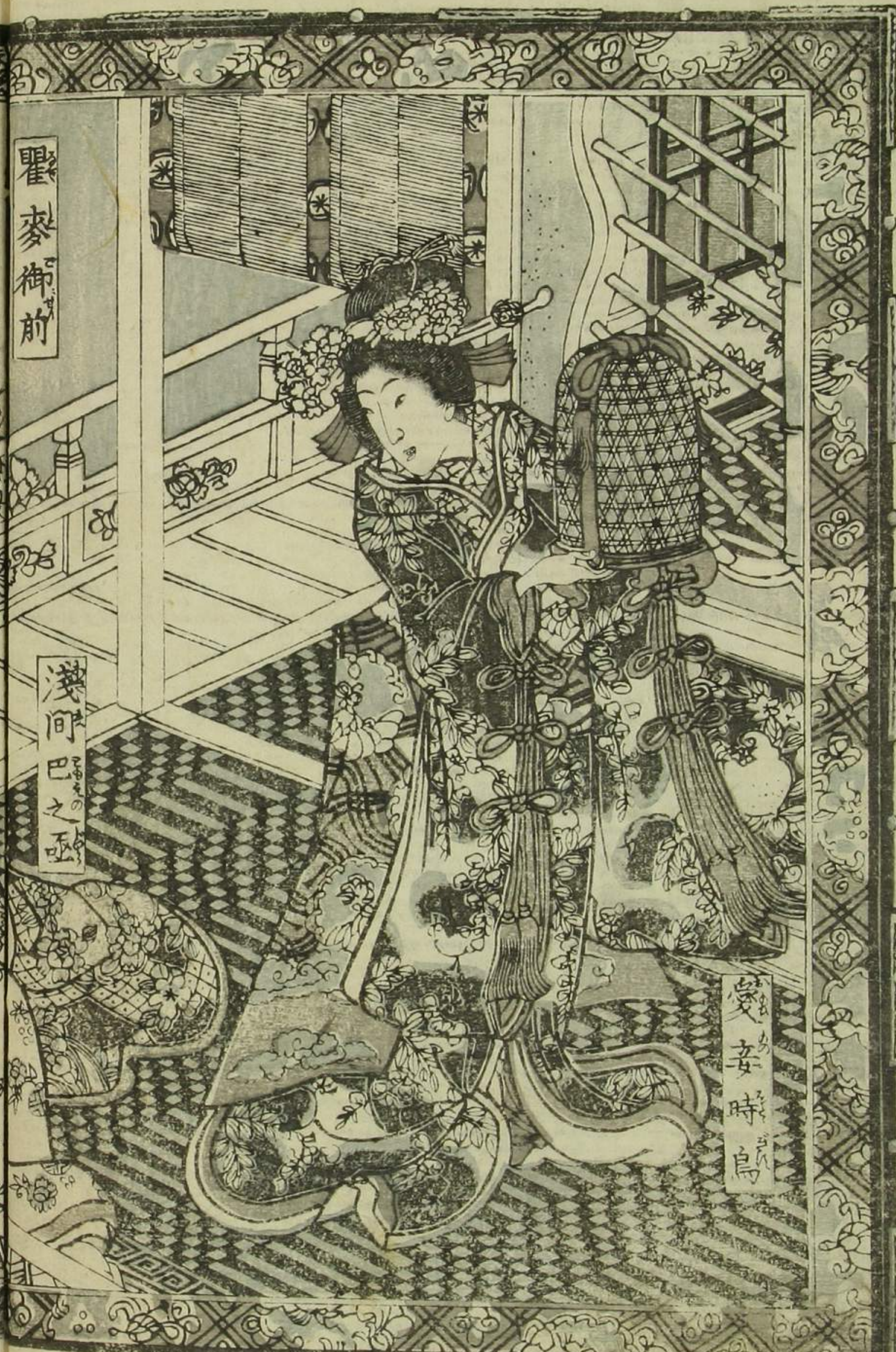
嘉永八年乙卯歲
 正月發兌

柳下亭社弟子
 柳烟亭種久記



聖麥御前

淺間巴之丞



愛妾時鳥



瞿麥時鳥あざむぎときどりの急慕いそむの情なさけと
 こゝろこゝろに狂獅子くるましの慣なれ



唐土台州清涼山の
 文殊大士巴之咄の夢
 中ノ現ト正ノ圖

三編
おのれを
おのれを
おのれを
おのれを
おのれを



おのれを
おのれを
おのれを
おのれを
おのれを

上
おのれを
おのれを
おのれを
おのれを

おのれを
おのれを
おのれを
おのれを
おのれを

おのれを
おのれを
おのれを
おのれを
おのれを

おのれを
おのれを
おのれを
おのれを
おのれを

おのれを
おのれを
おのれを
おのれを
おのれを



一の巻の
 二巻の
 三巻の
 四巻の
 五巻の
 六巻の
 七巻の
 八巻の
 九巻の
 十巻の
 十一巻の
 十二巻の
 十三巻の
 十四巻の
 十五巻の
 十六巻の
 十七巻の
 十八巻の
 十九巻の
 二十巻の
 二十一巻の
 二十二巻の
 二十三巻の
 二十四巻の
 二十五巻の
 二十六巻の
 二十七巻の
 二十八巻の
 二十九巻の
 三十巻の
 三十一巻の
 三十二巻の
 三十三巻の
 三十四巻の
 三十五巻の
 三十六巻の
 三十七巻の
 三十八巻の
 三十九巻の
 四十巻の
 四十一巻の
 四十二巻の
 四十三巻の
 四十四巻の
 四十五巻の
 四十六巻の
 四十七巻の
 四十八巻の
 四十九巻の
 五十巻の



一の巻の
 二巻の
 三巻の
 四巻の
 五巻の
 六巻の
 七巻の
 八巻の
 九巻の
 十巻の
 十一巻の
 十二巻の
 十三巻の
 十四巻の
 十五巻の
 十六巻の
 十七巻の
 十八巻の
 十九巻の
 二十巻の
 二十一巻の
 二十二巻の
 二十三巻の
 二十四巻の
 二十五巻の
 二十六巻の
 二十七巻の
 二十八巻の
 二十九巻の
 三十巻の
 三十一巻の
 三十二巻の
 三十三巻の
 三十四巻の
 三十五巻の
 三十六巻の
 三十七巻の
 三十八巻の
 三十九巻の
 四十巻の
 四十一巻の
 四十二巻の
 四十三巻の
 四十四巻の
 四十五巻の
 四十六巻の
 四十七巻の
 四十八巻の
 四十九巻の
 五十巻の



Vertical columns of handwritten Japanese text surrounding the top illustration.

Vertical columns of handwritten Japanese text surrounding the bottom illustration. A circled character '時' (time) is visible on the illustration.



Vertical columns of handwritten Japanese text surrounding the top illustration.

Vertical columns of handwritten Japanese text surrounding the bottom illustration.



Handwritten text in the upper left corner of the right page, likely a title or introductory text.

Main body of handwritten text on the right page, arranged in vertical columns.

Handwritten text at the bottom of the right page, possibly a signature or date.



Handwritten text in the upper left corner of the left page, likely a title or introductory text.

Main body of handwritten text on the left page, arranged in vertical columns.

Handwritten text at the bottom of the left page, possibly a signature or date.

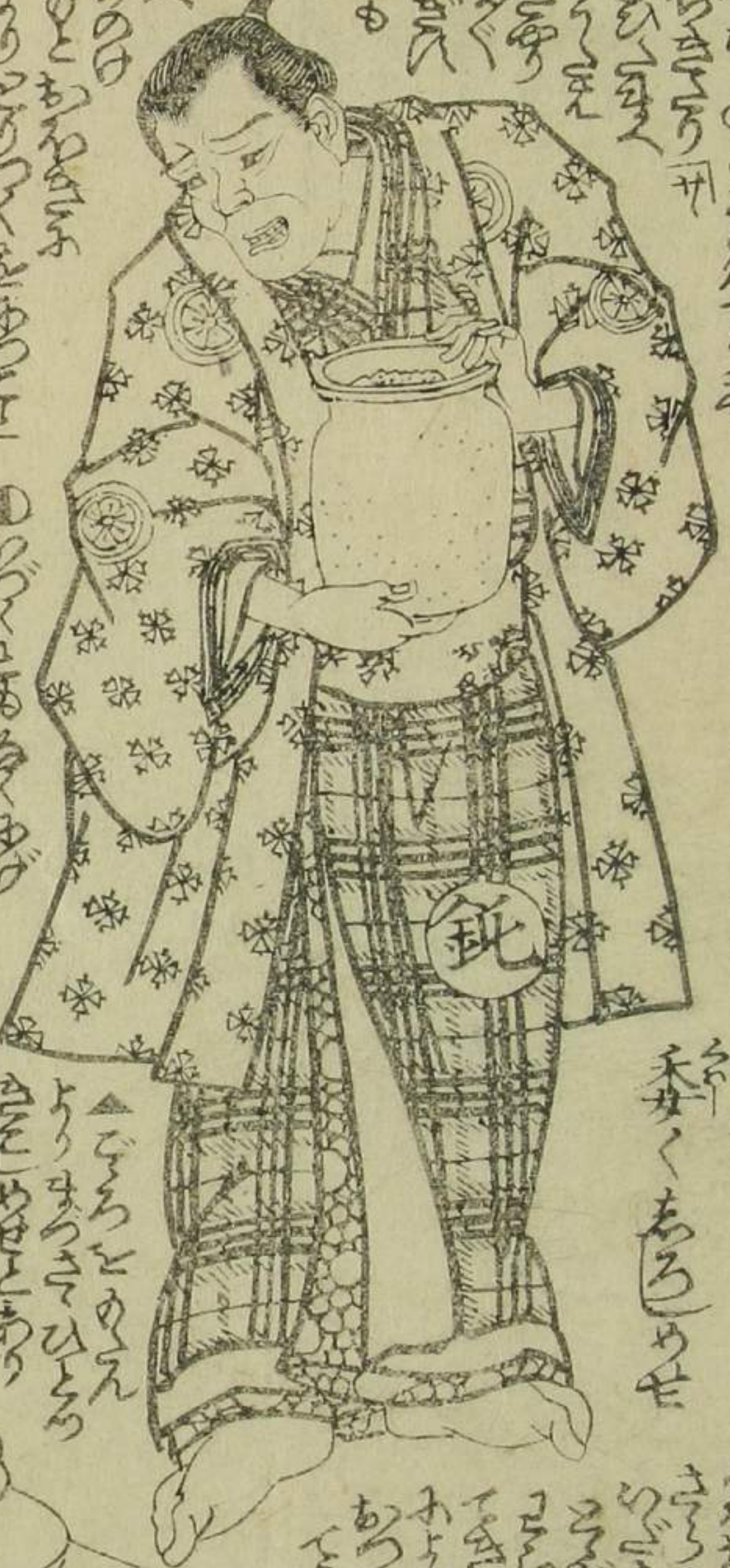


月夜

種久抄録 國負圖画

此所の解譯ハ四編小至ク
未女くあるりせ

此所の解譯ハ四編小至ク
未女くあるりせ



此所の解譯ハ四編小至ク
未女くあるりせ

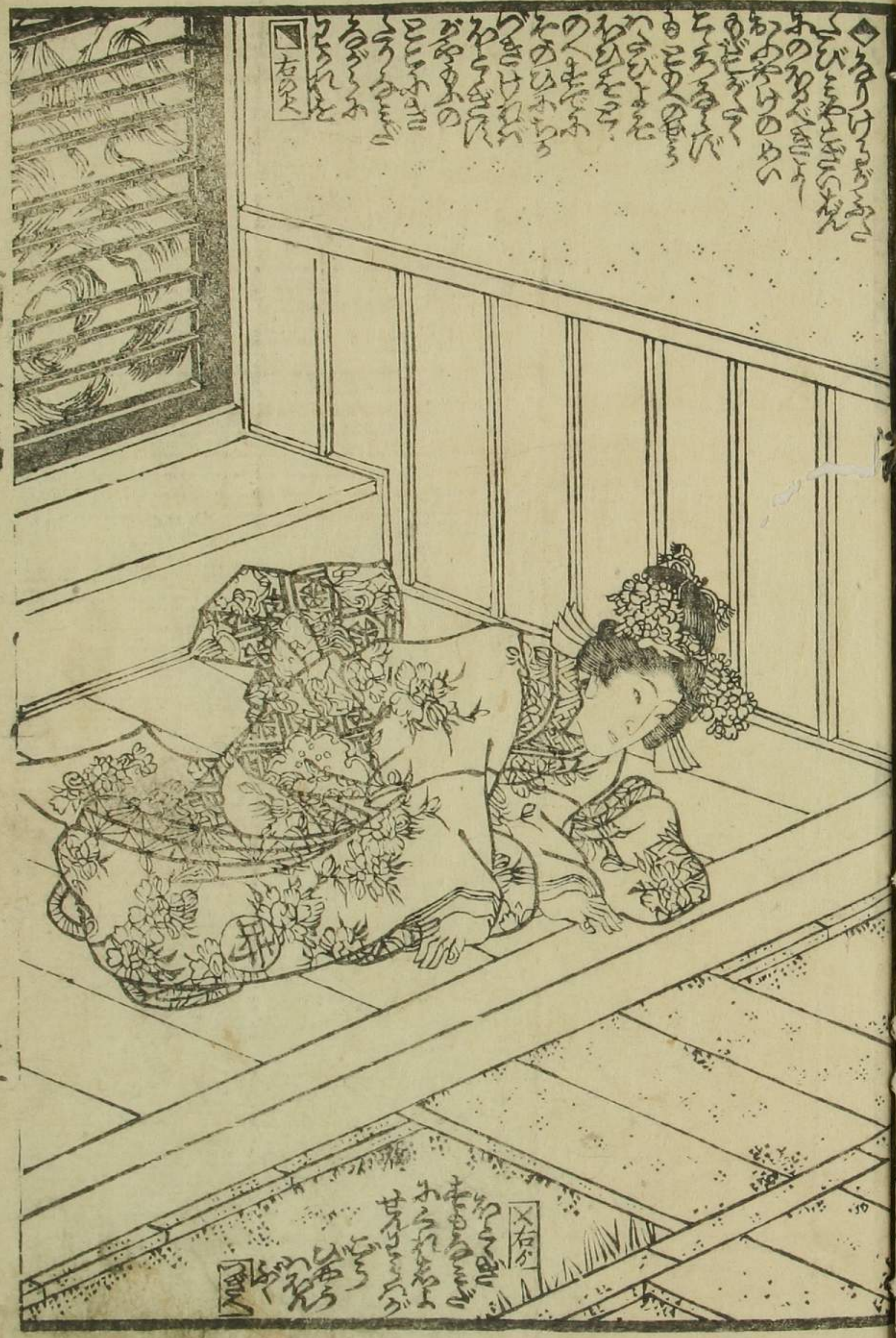
此所の解譯ハ四編小至ク
未女くあるりせ



此所の解譯ハ四編小至ク
未女くあるりせ

此所の解譯ハ四編小至ク
未女くあるりせ

長門の女御



女御の御衣は
 花の御衣は
 草の御衣は
 木々の御衣は
 山の御衣は
 川の御衣は
 池の御衣は
 海川の御衣は
 空の御衣は
 地の御衣は
 人の御衣は
 物の御衣は
 心の御衣は
 神の御衣は
 鬼の御衣は
 妖の御衣は
 魔の御衣は
 呪の御衣は
 呪の御衣は

女御の御衣は
 花の御衣は
 草の御衣は
 木々の御衣は
 山の御衣は
 川の御衣は
 池の御衣は
 海川の御衣は
 空の御衣は
 地の御衣は
 人の御衣は
 物の御衣は
 心の御衣は
 神の御衣は
 鬼の御衣は
 妖の御衣は
 魔の御衣は
 呪の御衣は
 呪の御衣は



女御の御衣は
 花の御衣は
 草の御衣は
 木々の御衣は
 山の御衣は
 川の御衣は
 池の御衣は
 海川の御衣は
 空の御衣は
 地の御衣は
 人の御衣は
 物の御衣は
 心の御衣は
 神の御衣は
 鬼の御衣は
 妖の御衣は
 魔の御衣は
 呪の御衣は
 呪の御衣は

女御の御衣は
 花の御衣は
 草の御衣は
 木々の御衣は
 山の御衣は
 川の御衣は
 池の御衣は
 海川の御衣は
 空の御衣は
 地の御衣は
 人の御衣は
 物の御衣は
 心の御衣は
 神の御衣は
 鬼の御衣は
 妖の御衣は
 魔の御衣は
 呪の御衣は
 呪の御衣は



ついでに... (vertical text columns) ...

又中へ... (vertical text columns) ...



泉 (large character)

ついでに... (vertical text columns) ...

又中へ... (vertical text columns) ...



南無阿彌陀佛
南無阿彌陀佛
南無阿彌陀佛
南無阿彌陀佛
南無阿彌陀佛
南無阿彌陀佛
南無阿彌陀佛
南無阿彌陀佛
南無阿彌陀佛
南無阿彌陀佛

南無阿彌陀佛
南無阿彌陀佛
南無阿彌陀佛
南無阿彌陀佛
南無阿彌陀佛
南無阿彌陀佛
南無阿彌陀佛
南無阿彌陀佛
南無阿彌陀佛
南無阿彌陀佛



南無阿彌陀佛
南無阿彌陀佛
南無阿彌陀佛
南無阿彌陀佛
南無阿彌陀佛
南無阿彌陀佛
南無阿彌陀佛
南無阿彌陀佛
南無阿彌陀佛
南無阿彌陀佛

Calligraphic text in the top left corner of the right page, consisting of several vertical columns of characters.

Calligraphic text in the top right corner of the right page, continuing the vertical columns.



Calligraphic text in the bottom right corner of the right page, below the illustration.

Calligraphic text in the top left corner of the left page.

Calligraphic text in the top middle of the left page.



Calligraphic text in the bottom left corner of the left page.



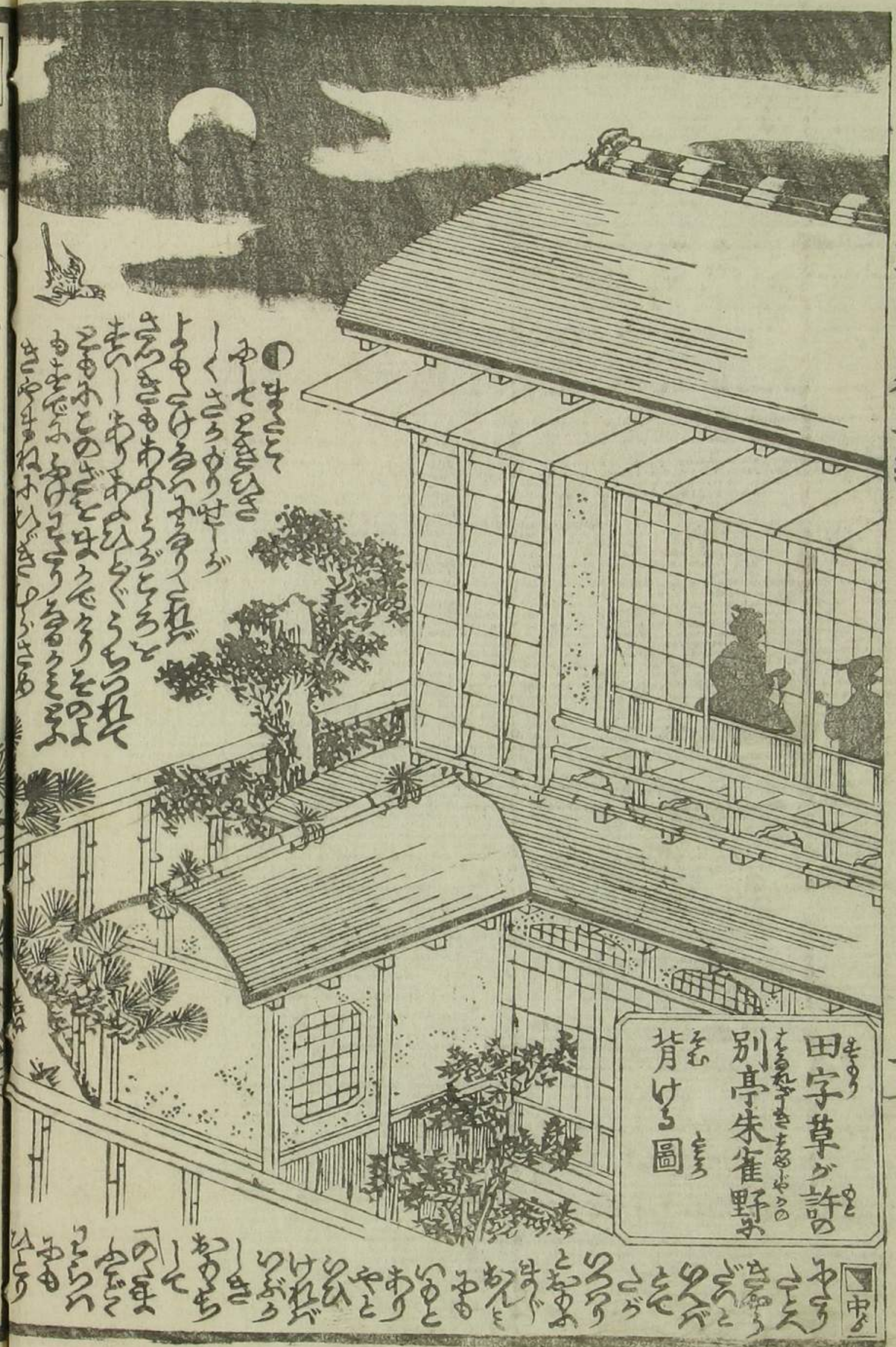
三の巻
 三つかき
 三つかき
 三つかき
 三つかき
 三つかき
 三つかき
 三つかき
 三つかき
 三つかき
 三つかき
 三つかき

つぎの巻
 つぎの巻
 つぎの巻
 つぎの巻
 つぎの巻
 つぎの巻
 つぎの巻
 つぎの巻
 つぎの巻
 つぎの巻

後まじり
 紅圍子
 此處の
 重圍子
 用むと
 文小背
 借小
 出ま
 時

江戸門外

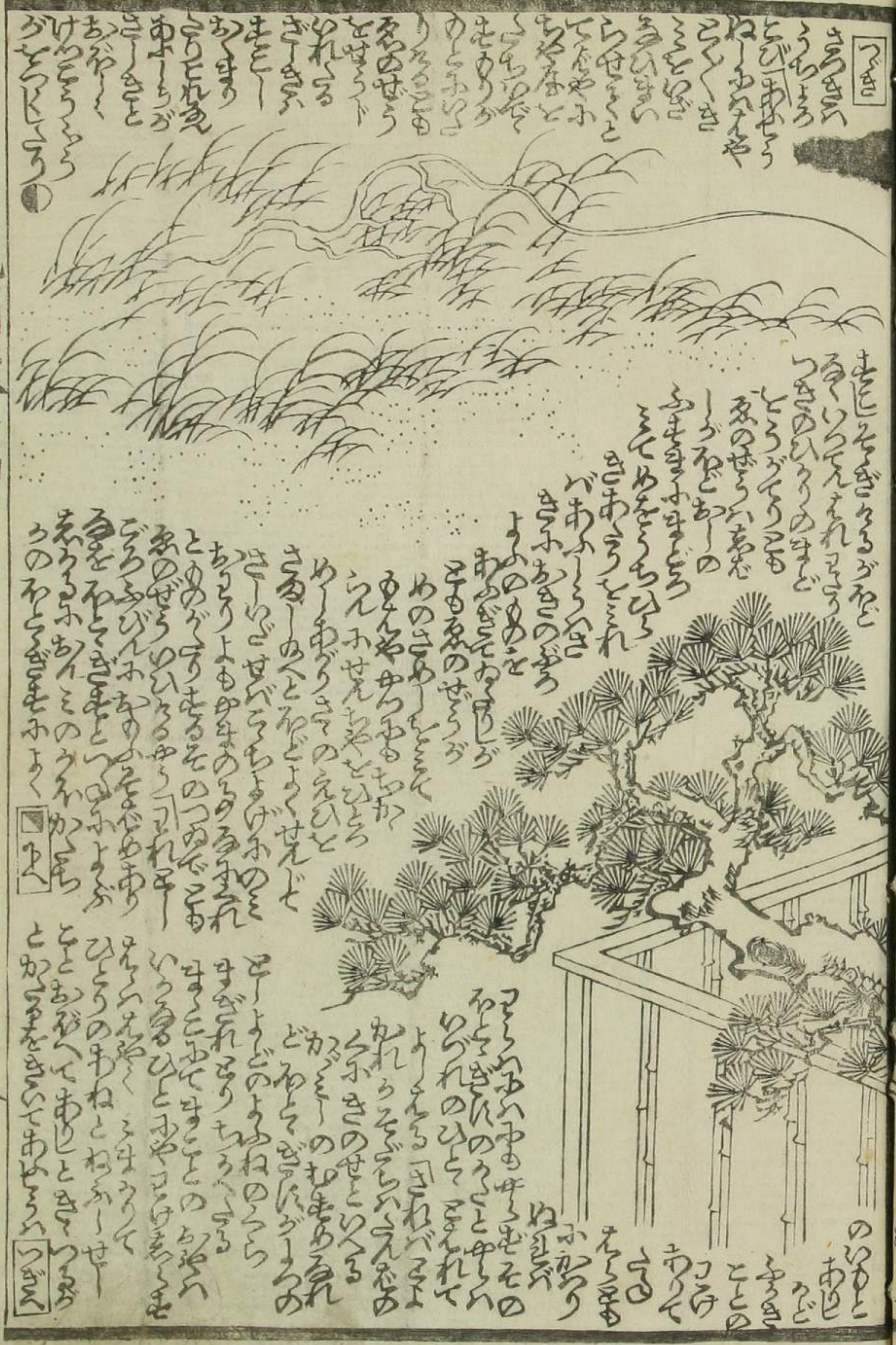
江戸門外



田字草の許
 別亭朱雀野
 背けの圖

○
 田字草の許
 別亭朱雀野
 背けの圖

田字草の許
 別亭朱雀野
 背けの圖



○
 田字草の許
 別亭朱雀野
 背けの圖

田字草の許
 別亭朱雀野
 背けの圖



月夜 三編

ついでに 昔のくみ 去年八月の三五夜 せせとて
さねきよを かねが元来 ねらまの

時鳥が亡霊 二個の女童の魂
ととも小巴之巫と
尋る 圖

中八



月夜 三編

まをちあつて
まねのあつ
まをちあつて
まをちあつて
まをちあつて
まをちあつて
まをちあつて
まをちあつて
まをちあつて
まをちあつて

まをちあつて
まねのあつ
まをちあつて
まをちあつて
まをちあつて
まをちあつて
まをちあつて
まをちあつて
まをちあつて
まをちあつて

つぎとつぎのひとをきり
つらむらりてあか
るうこたすてあか
よつとあか

▲ひび
もろえん
とまきも
あのみち
もかき
けれいあはら
をるるあはら
りんのあはら

林王壺生肌膏
方 一頁三十孔
おびごきりまう
あはらあはら
金瘡
即愈
奇功紙
一枚廿四孔
制衣好
吉原
反次
柳下亭



種久抄録
國貞圖画

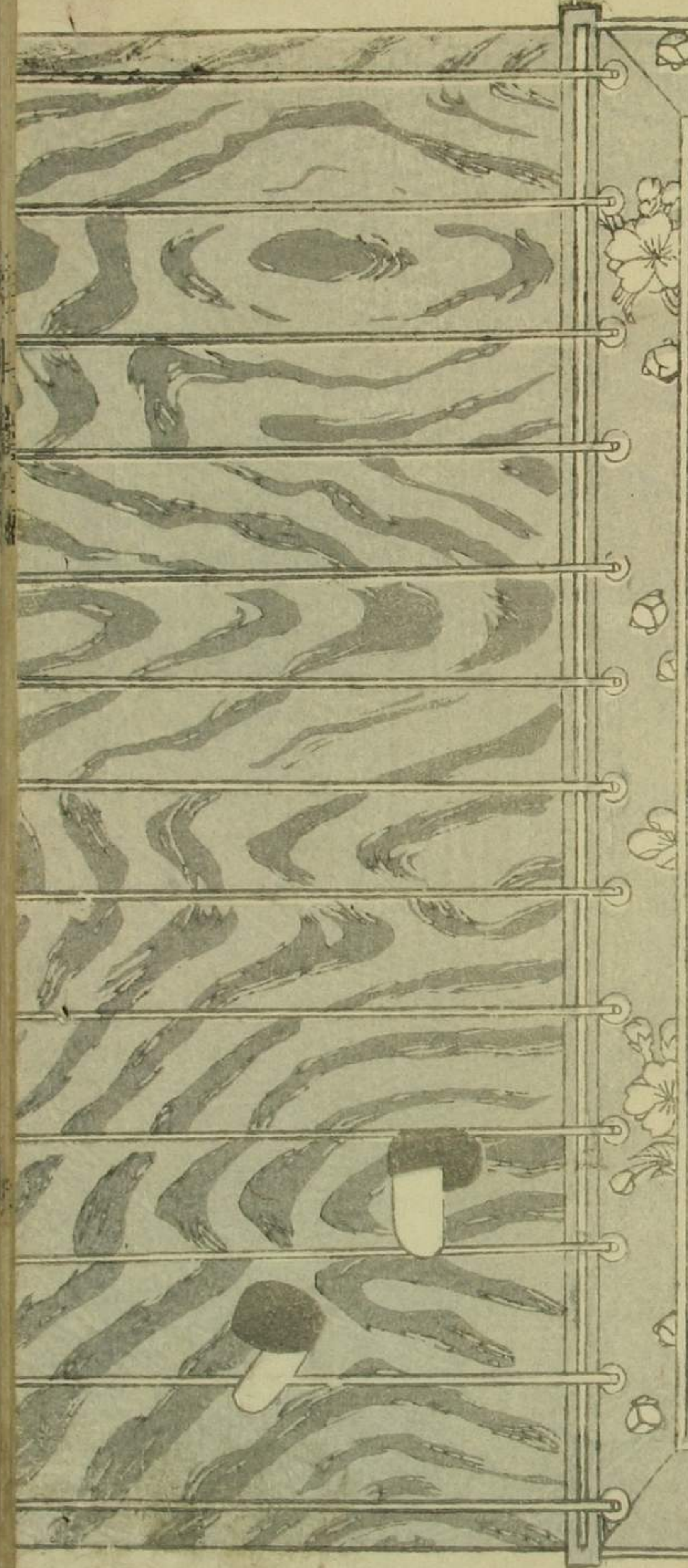
△中
これらふふ
よつとあか
あはら

其田
浄書 青洲

雪枝小織の介主人巴之丞
下へ速使
此と四編小委

風俗淺間嶽

第四編上冊甘泉堂壽栞
柳水亭種清作(壽齋國貞画)



柳下亭種員校合
柳水亭種清抄錄
梅蝶樓國貞圖畫

甘泉堂販



下

風俗淺間嶽四編

甘泉堂販



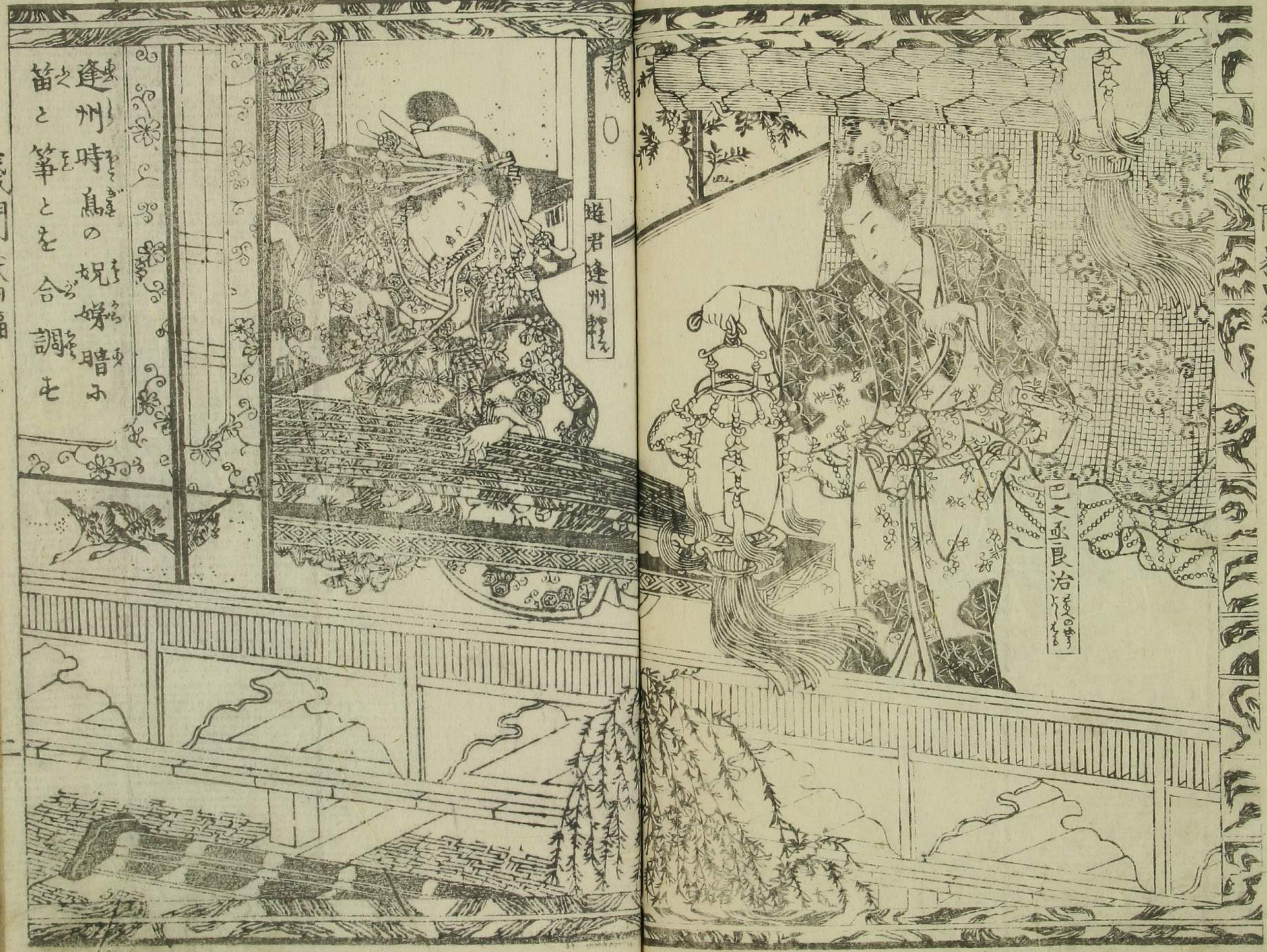
上

逢州時鳥の祝姫暗ふ
笛と箏とを合調を

式月日編

遊君逢州

巴之丞良治





舞振

胡蝶

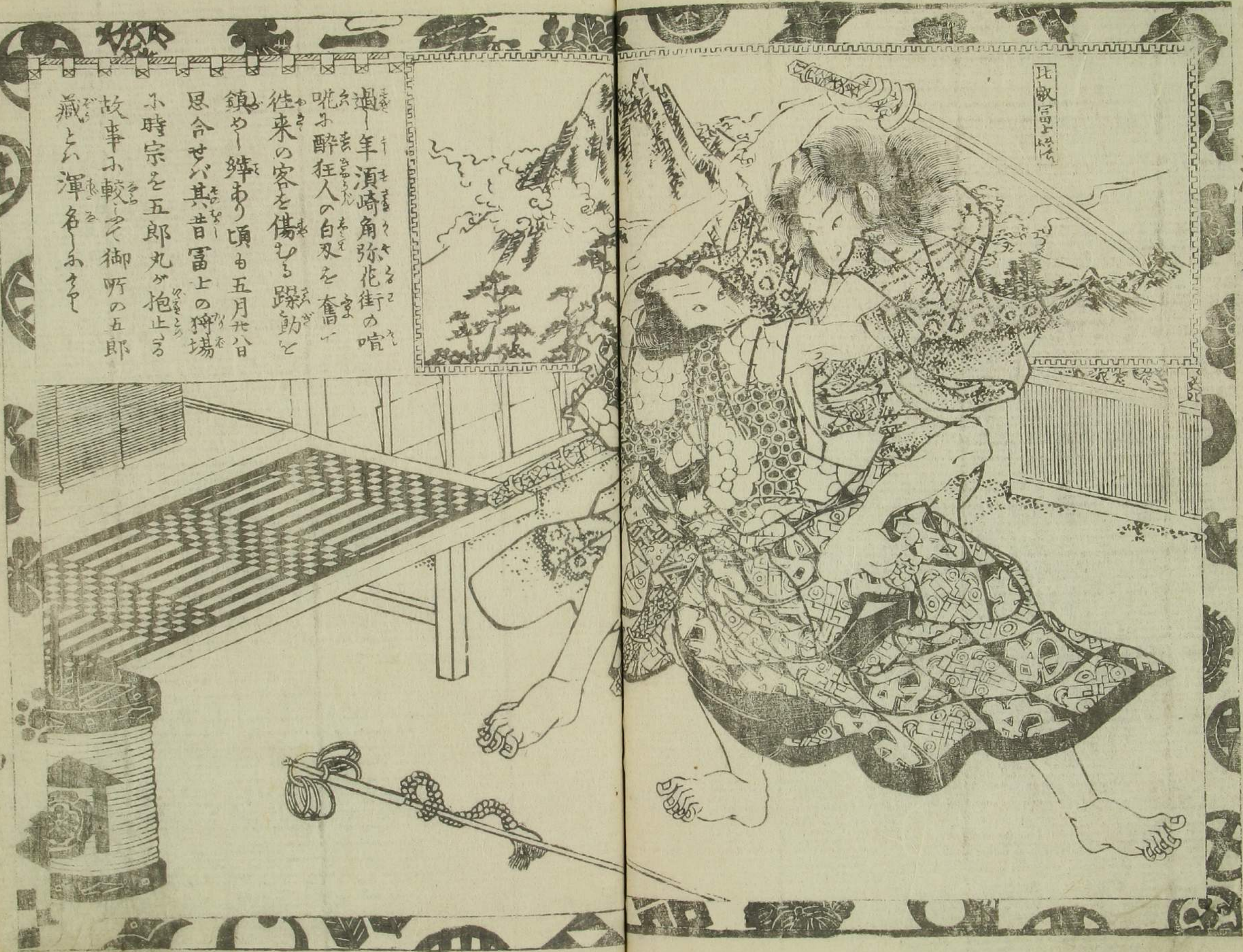


愛立時鳥

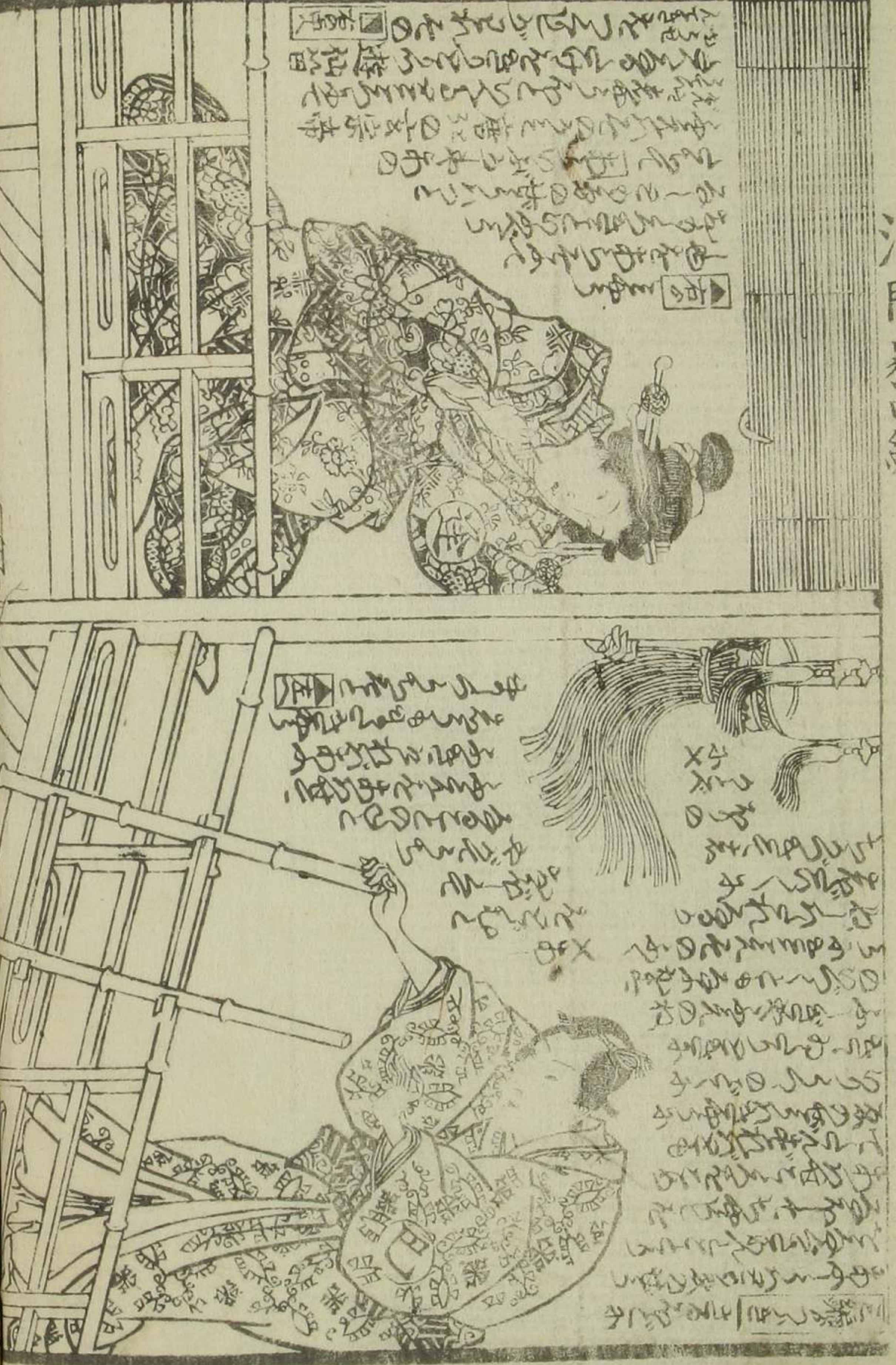
其

過一羊須崎角弥花街の喧
 叱小醉狂人の白刃を奮一
 往來の客を傷むも躁動と
 鎮め辨あり頃も五月廿八日
 思合せバ其昔富上の狩場
 小時宗を五郎丸が抱止る
 故事小較之御所の五郎
 藏と六渾名ふを也

成月心状日記



比叡宮



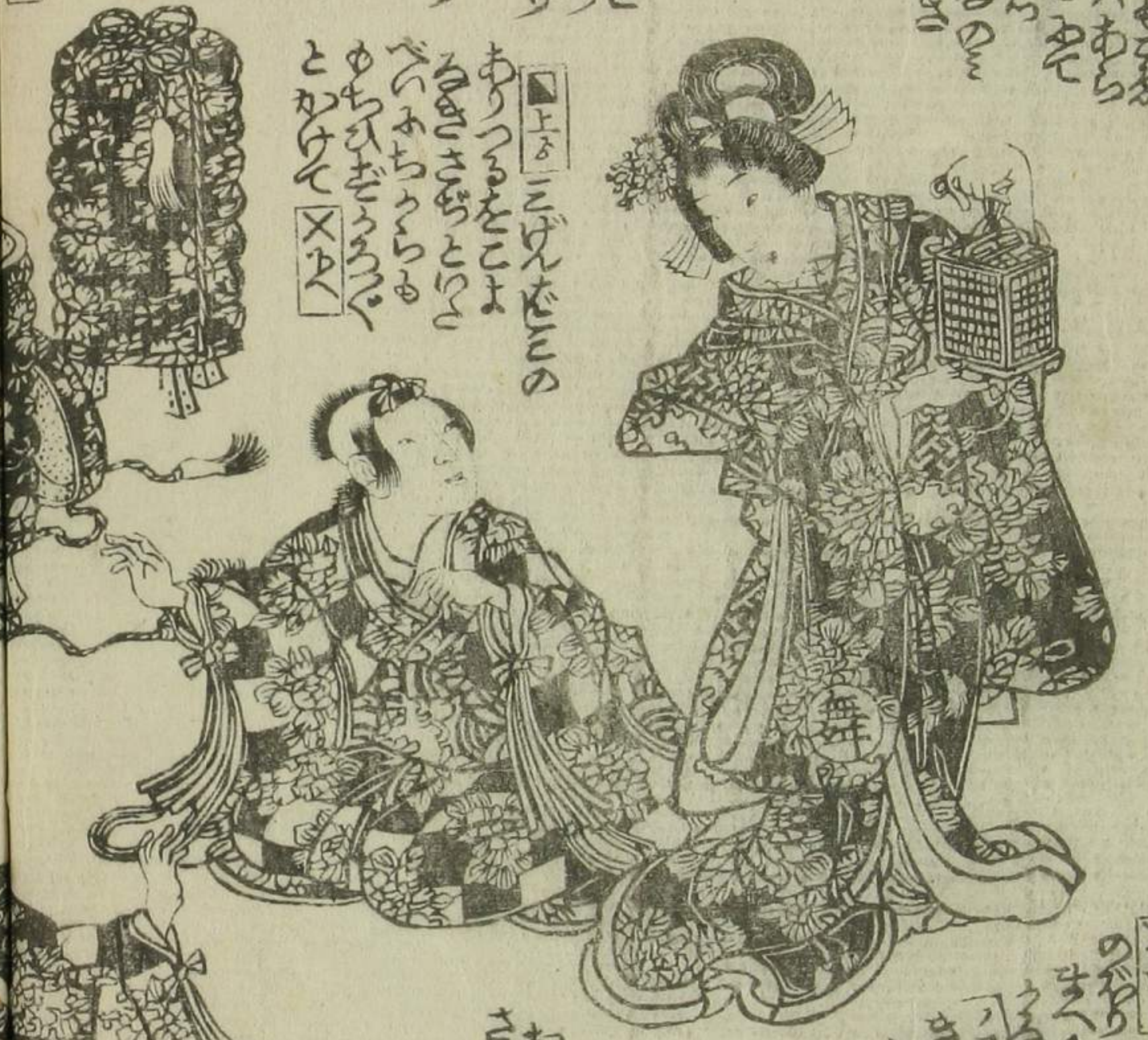
田代 卷四 圖畫
 此圖畫之妙處
 在於其人物之
 神情與衣冠之
 華麗。其用筆
 之精細，實為
 日本畫壇之冠
 也。且其背景
 之植物，亦極
 其生動，與
 人物相映成
 趣。此誠為
 日本藝術之
 一絕也。

田代 卷四 圖畫
 此圖畫之妙處
 在於其人物之
 神情與衣冠之
 華麗。其用筆
 之精細，實為
 日本畫壇之冠
 也。且其背景
 之植物，亦極
 其生動，與
 人物相映成
 趣。此誠為
 日本藝術之
 一絕也。

田代 卷四 圖畫
 此圖畫之妙處
 在於其人物之
 神情與衣冠之
 華麗。其用筆
 之精細，實為
 日本畫壇之冠
 也。且其背景
 之植物，亦極
 其生動，與
 人物相映成
 趣。此誠為
 日本藝術之
 一絕也。

田代 卷四 圖畫
 此圖畫之妙處
 在於其人物之
 神情與衣冠之
 華麗。其用筆
 之精細，實為
 日本畫壇之冠
 也。且其背景
 之植物，亦極
 其生動，與
 人物相映成
 趣。此誠為
 日本藝術之
 一絕也。

下二つを手に持たせりて
おかしに二つを手に持たせりて
おかしに二つを手に持たせりて
おかしに二つを手に持たせりて
おかしに二つを手に持たせりて
おかしに二つを手に持たせりて



このはきふは
おかしに二つを手に持たせりて
おかしに二つを手に持たせりて
おかしに二つを手に持たせりて
おかしに二つを手に持たせりて
おかしに二つを手に持たせりて

このはきふは
おかしに二つを手に持たせりて
おかしに二つを手に持たせりて
おかしに二つを手に持たせりて
おかしに二つを手に持たせりて
おかしに二つを手に持たせりて

このはきふは
おかしに二つを手に持たせりて
おかしに二つを手に持たせりて
おかしに二つを手に持たせりて
おかしに二つを手に持たせりて
おかしに二つを手に持たせりて



このはきふは
おかしに二つを手に持たせりて
おかしに二つを手に持たせりて
おかしに二つを手に持たせりて
おかしに二つを手に持たせりて
おかしに二つを手に持たせりて

Handwritten text in a cursive script, likely a preface or introductory text, located at the top of the right page.



Handwritten text in a cursive script, likely a continuation of the text or a commentary, located at the bottom of the right page.

Handwritten text in a cursive script, likely a preface or introductory text, located at the top of the left page.

Handwritten text in a cursive script, likely a continuation of the text or a commentary, located in the middle section of the left page.



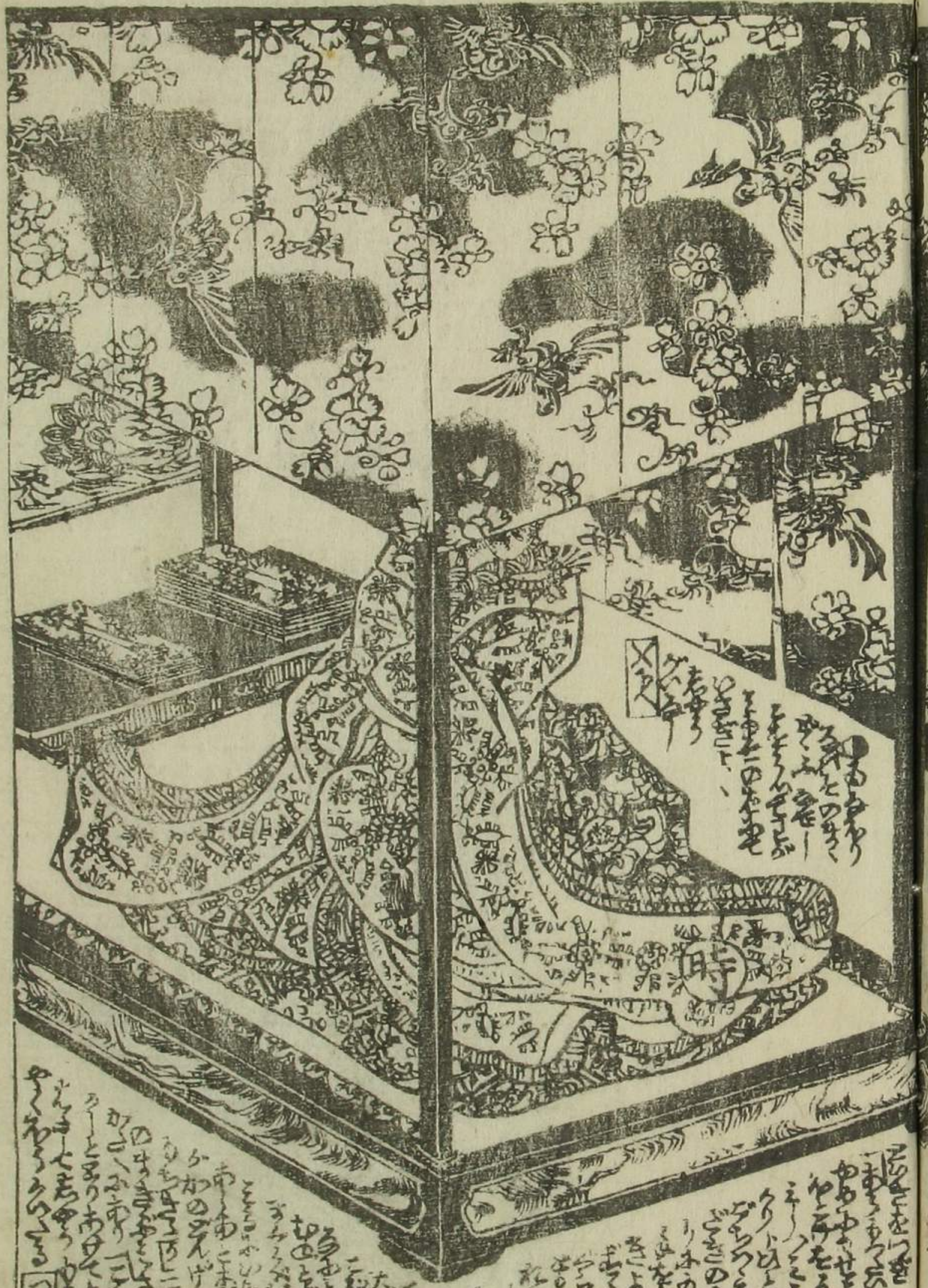
Handwritten text in a cursive script, likely a continuation of the text or a commentary, located at the bottom of the left page.

春の...
1. ...
2. ...
3. ...
4. ...
5. ...
6. ...
7. ...
8. ...
9. ...
10. ...

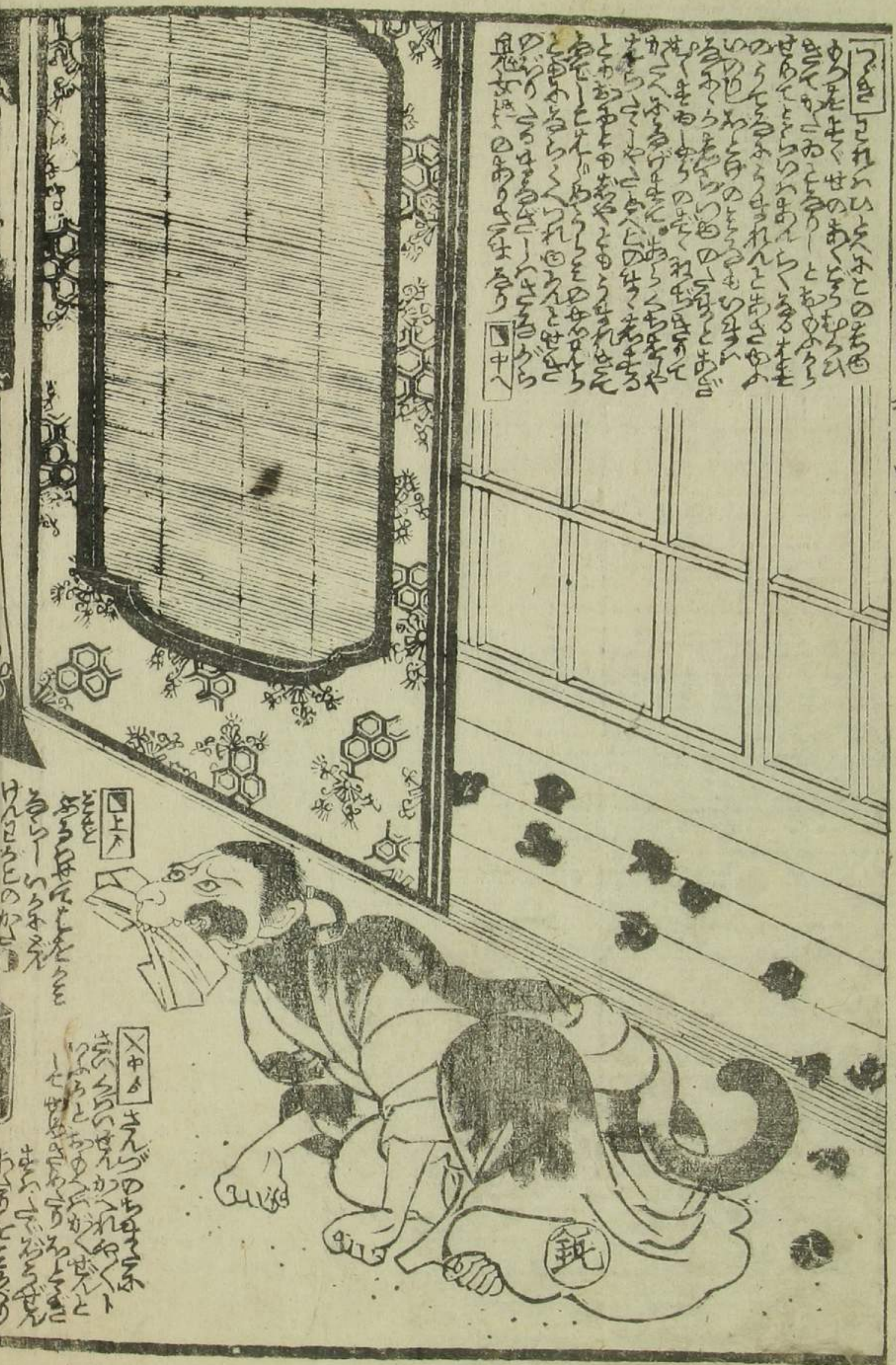
春の...
1. ...
2. ...
3. ...
4. ...
5. ...
6. ...
7. ...
8. ...
9. ...
10. ...



春の...
1. ...
2. ...
3. ...
4. ...
5. ...
6. ...
7. ...
8. ...
9. ...
10. ...



十回
 此の床は...
 花鳥の文様...
 中央に時...
 縁に雲文...
 床の間に...
 障子の...
 簾の...
 畳の...
 障子の...
 簾の...
 畳の...

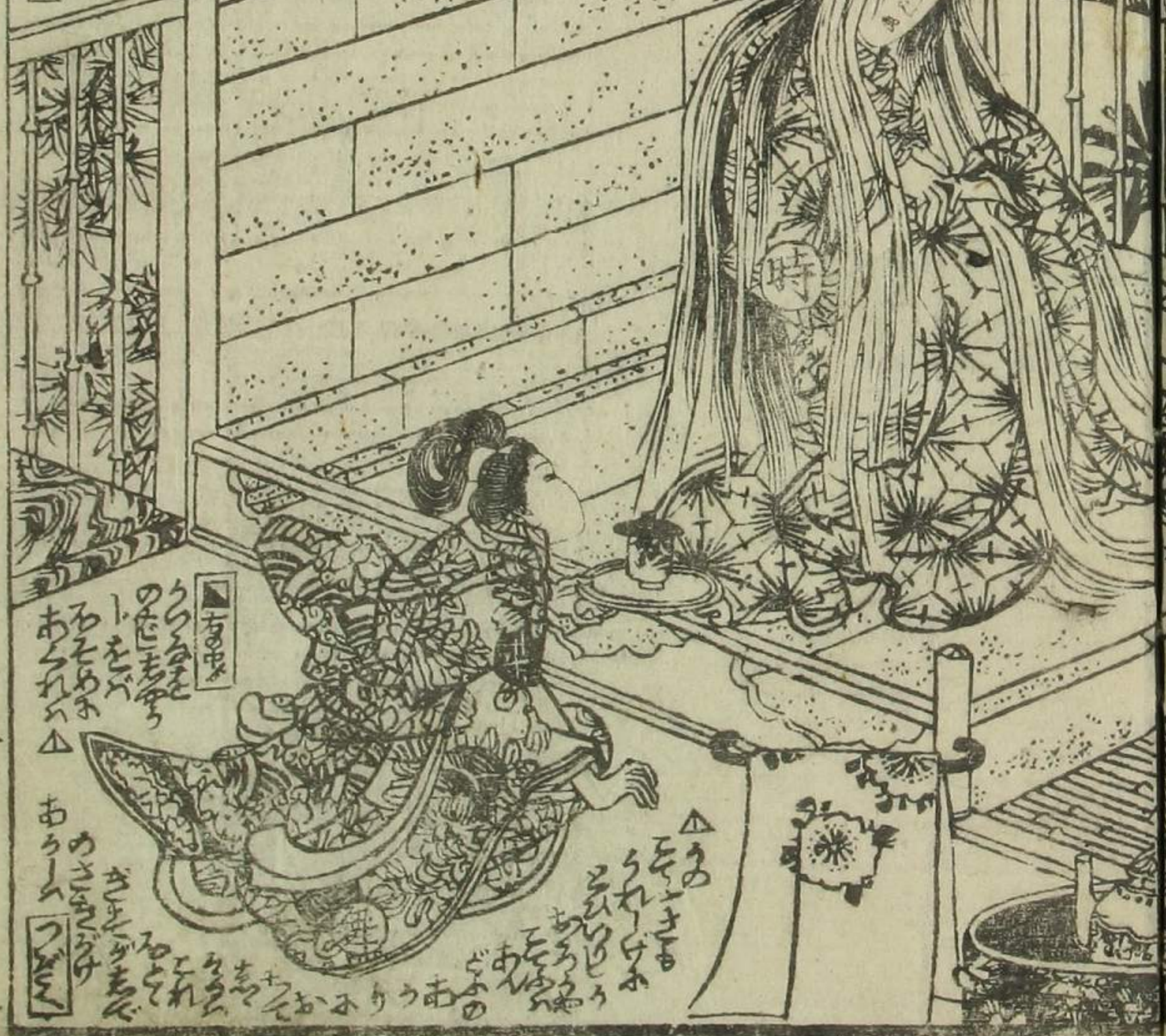


江戸
 此の男は...
 口には...
 障子の...
 簾の...
 畳の...
 障子の...
 簾の...
 畳の...

江戸
 此の部屋は...
 障子の...
 簾の...
 畳の...
 障子の...
 簾の...
 畳の...
 障子の...
 簾の...
 畳の...

此の物語は、
 昔、ある村に
 一人の女が居り、
 其の髪は長く、
 常に水の中へ
 垂れ下りて居り、
 故に水は濁り、
 人々は皆、
 病を患へたり。

此の物語は、
 昔、ある村に
 一人の女が居り、
 其の髪は長く、
 常に水の中へ
 垂れ下りて居り、
 故に水は濁り、
 人々は皆、
 病を患へたり。



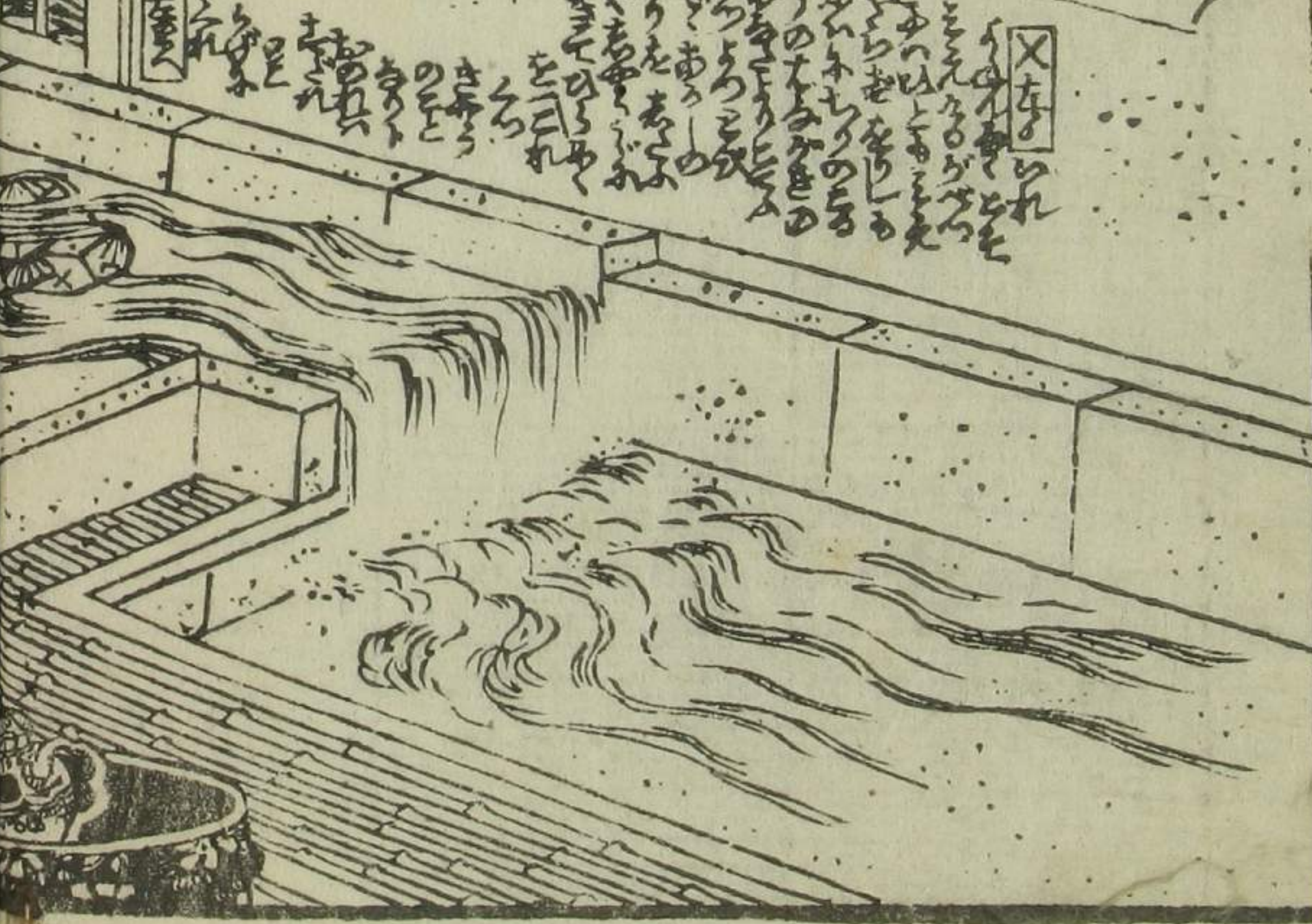
此の物語は、
 昔、ある村に
 一人の女が居り、
 其の髪は長く、
 常に水の中へ
 垂れ下りて居り、
 故に水は濁り、
 人々は皆、
 病を患へたり。

此の物語は、
 昔、ある村に
 一人の女が居り、
 其の髪は長く、
 常に水の中へ
 垂れ下りて居り、
 故に水は濁り、
 人々は皆、
 病を患へたり。

此の物語は、
 昔、ある村に
 一人の女が居り、
 其の髪は長く、
 常に水の中へ
 垂れ下りて居り、
 故に水は濁り、
 人々は皆、
 病を患へたり。



此の物語は、
 昔、ある村に
 一人の女が居り、
 其の髪は長く、
 常に水の中へ
 垂れ下りて居り、
 故に水は濁り、
 人々は皆、
 病を患へたり。



此の物語は、
 昔、ある村に
 一人の女が居り、
 其の髪は長く、
 常に水の中へ
 垂れ下りて居り、
 故に水は濁り、
 人々は皆、
 病を患へたり。



申山 烈女傳
申山 烈女傳
申山 烈女傳

申山 烈女傳

浅月 状日編

浅月 状日編



浅月 状日編
浅月 状日編

浅月 状日編
浅月 状日編

ついでに
おもしろい
うらやましい
さびしい
これら三つの中
にふつふつと
おもしろい
うらやましい
さびしい
おもしろい
うらやましい
さびしい

怪異
おもしろい
うらやましい
さびしい
これら三つの中
にふつふつと
おもしろい
うらやましい
さびしい
おもしろい
うらやましい
さびしい

おもしろい
うらやましい
さびしい
これら三つの中
にふつふつと
おもしろい
うらやましい
さびしい
おもしろい
うらやましい
さびしい



おもしろい
うらやましい
さびしい
これら三つの中
にふつふつと
おもしろい
うらやましい
さびしい

おもしろい
うらやましい
さびしい
これら三つの中
にふつふつと
おもしろい
うらやましい
さびしい

おもしろい
うらやましい
さびしい
これら三つの中
にふつふつと
おもしろい
うらやましい
さびしい

中秋の日の夕暮
 おぼろのやうな
 もせをのぞくと
 さかすまのあま
 りつとてつとま
 りんかやうな
 肉林の酒海も
 るふんぬのこ
 まはつとんを
 しのむ
 るの
 あら
 一
 〇



種清録 國貞画

浄書 青洲

画少 青川 烟号 著者

児雷也毫傑禪

世六命 世七命
 世八命 世九命
 世十命
 世十一命
 世十二命

妹婿山女庭判

二編より切

種清画 芳虎画

不思義塚小説

一 水亭種清画
 一 齋圃芳画
 一 宝齋芳画

坂名子本志居籠

二角結切

安政七申春發行 甘泉堂 和泉屋市兵衛板



